

平成 16 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 事業所周辺における大気環境リスクの推計に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>研究成果を活かすには、事業者や住民への情報提供が大切だと思われるので、それにふさわしい成果が得られることを期待します。</p> <p>これまでの関連課題をベースとした実行性の高い研究課題であると思われる。ただし、研究成果を現実の場での問題解決に結びつけるための検討を十分に行ってほしい。</p> <p>排出量 - 拡散モデル - 現地モニタリングを相互に関連付けながら研究を進めてほしい。</p> <p>大気中の濃度が薄い物質を対象とするので、拡散モデルの検証が難しい状況もあるかと思われるので、短期予測と短期的なモニタリングで検証を行い、年間値などの長期予測に使用するなどの工夫が必要となる。</p>	<p>事業者に対しては、事業所自身が排出量から濃度推計を行うような場合に必要となるバックグラウンド値などの自主管理に有用な情報を提供し、また、住民への情報提供としては学区、町内会や自治会などの身近な範囲の中の環境リスク評価結果を提供していくこととします。</p> <p>今後とも、研究の成果を条例の施行に活用していくために、行政との協議を継続し、検討結果を研究計画に反映していきます。</p> <p>拡散モデルの精度や入力条件などを考慮して、現地調査による排出量の確認、現地モニタリングなどの調査を計画し、研究を進めます。</p> <p>ご指摘のように、一定時間の短期的なモニタリング結果と短期予測との比較、年平均値としての長期的なモニタリングと長期予測を検討しながら研究を進めていきます。また、モデルの適用に関しては、他の研究機関の研究者との情報交換を行いながら検証を進めていきます。</p>

平成 16 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 事業所周辺における大気環境リスクの推計に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>地域における化学物質のリスク評価を実施していくために基本的な知見となる重要な研究であると思われるので、住民への情報公開、リスク低減への施策作りなどに活かすことができる信頼性の高い成果を期待します。</p> <p>エミッションインベントリを PRTR に基づき整備する意義は大きく、地域メッシュに整理すれば行政施策に対して、また、住民への情報として重要なものとなる。さらに、環境における環境動態の解明も不可欠な研究課題と言える。しかし、これらをつなぐ拡散計算には未だ検討の余地は残されており、これにどう対応するかが課題である。</p>	<p>住民への情報公開としては、学区、町内会や自治会などの身近な範囲の中の環境リスク評価結果を提供していくとともに、行政との連携を図りながら、条例の施行に有用な成果を目指し、研究を進めていきます。また、濃度推計結果に対しては、各委員から指摘のあった誤差の検討を行った上で環境リスクの評価を行っていきます。</p> <p>ご指摘のように、環境濃度推計においては、インベントリの整理、発生源からの発生量の推計、建物や地形などを考慮した濃度推計モデルの検討、気象の検討などのさまざまな課題が残されています。本研究ではこれらの課題を認識しながらも、可能な限りの取得可能なデータを用い、利用可能な濃度推計モデルを使用した環境リスクの推計を目指しております。したがって、推計精度を把握することが重要なことと考え、発生源の調査や事業所周辺における環境モニタリングデータ、経常的に測定されている有害大気モニタリングデータを用いた検証や誤差の確認が重要になると考えます。他の研究機関の研究者との情報交換や行政との連携を継続しながら、研究を進めていきます。</p>

平成 16 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 事業所周辺における大気環境リスクの推計に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>地域のデータとして非常に重要な課題であると思 います。実際の測定結果とモデリングによる予測が合 わない場合どうするのかという指摘がありましたが、 モデリングの際の誤差を表示できれば、この問題にあ る程度対処できると思われます。</p>	<p>ご指摘のとおり、モデル推計の誤差に関する検証は必要だと思われます。 モデルの推計結果の検証方法に関しては、有害大気モニタリング結果や現地 調査の結果の値との検証を中心に行っていきます。</p>